

# RI weekly レポート

～ シリアル・ルネッサンス～ <http://www.riceisland.co.jp>

## 「バイオマス」続き

VOL. 187 RI レポートでレポートしましたバイオマスの続編です。

10月31日の農業新聞にはバイオマスについて下記のような記事が掲載されていました。

北海道、十勝にバイオ燃料工場、年1万5千キロリットル供給 JAグループは、自動車用燃料バイオエタノールの製造工場建設に向けて取り組む。十勝のホクレン清水精糖工場(清水町)内に設け、規模は年間1万5千キロリットルを目標とする。バイオエタノールを3%混ぜるガソリン(E3)で、道内を走る車の2割を賄う。09年度の本格稼働を目指す。ホクレンは346店のGSを運営しているが、販売量は道内の1割。単独でE3を売り切るのは難しい。このため、新日本石油や出光興産などの石油元売り各社と早急に協議する方向だ。原料はテンサイで半分、あとの5割を規格外小麦と屑米で供給する予定。1万5千キロリットルのバイオエタノールの製造には、テンサイで8万トン、規格外小麦などで2万2500トンが必要となる。規格外小麦や屑米は、飼料やビール、みそ、焼酎の醸造用、米菓の原料としての需要があるだけに、原料をどう安定的に確保するのも大きな議題となりそうだ。

この記事からも、エタノールを製造する為の原料としてのテンサイ、小麦、米などが大量に必要なことを示しており、食糧と燃料のバランスを崩さないかと心配されます。

そこで注目すべき原料があります。それは「高きび」です。別名「コーリヤン」「ソルガム」とも呼ばれ、アフリカ、中国、ブラジルなどでも栽培され、熱帯地方では子実を主食とされるところが多く、酒類、菓子、シロップなどの原料にも用いられます。

茎や葉からエタノールを製造でき、茎の成長速度が速いことが特徴です。茎や葉からエネルギーを製造し、種子を主食に混ぜたり、焼酎・製菓原料・果糖の原料にもなります。

日本の本州でも栽培は可能で、各地で栽培は少量でされています。中でも山形県新庄市では、遊休農地でソルガムの栽培をすすめ、ソルガムからエタノールを製造しE3燃料に利用しています。ソルガムの実は小麦アレルギーの代替品として、お菓子の原料などに使用されるケースがありますが、まだまだ一般的ではありません。

今後想定される、食糧と燃料の問題を考えると、ソルガムのような穀物を普及して活用する社会システムが必要になってきています。

RIではソルガムを使用した商品として「まぜ炊き 紅きび」「ミラクルミレットさくらビューティーブレンド」「十種雑穀米」「素糧風土 五穀雑穀」があります。